➡青森県在宅保健師の会

令和元年8月発行・第30号

令和元年度青森県在宅保健師の会総会



去る5月27日、青森市ラ・プラス青い森において、令和元年度青森県在宅保健師の会総会並びに研修会、交流会・情報交換会を開催し47名の会員が出席しました。

総会では新井山洋子会長の挨拶のあと、来賓の県がん・生 活習慣病対策課長の蛯名勇登様から「県が力を入れている健 康づくりについて、県民の気運も高まってきていると実感し ており、近い将来、平均寿命の最下位は脱出できるものと考え ている。また、地域に根ざした保健活動を行う保健師を育成す るために、在宅保健師の皆様に新任等保健師の育成事業にご 協力をいただいている。経験が浅い若い保健師が増える中、 当事業による効果が得られており、会員の皆様には感謝して いる。今後ともよろしくお願いしたい」との挨拶をいただき ました。続いて、青森県国保連合会常務理事(当時)の寺田義秋 様からは「設立から22年目となる在宅保健師の会は会員が180 名を超え、大きく発展している。私がこの会に期待すること は、専門職として地域住民の健康づくりを支援していただく ことはもちろん、皆様には楽しく活動していただきたい。ま た、小規模保険者への支援、保健協力員や新任保健師の育成 など、各保険者に対する国保連合会の健康づくり事業へのご 協力を今後ともお願いしたい」と挨拶をいただきました。

議事では長瀬比佐子会員(十和田市)が議長に選出され、議事を進行し、平成30年度事業報告・決算、令和元年度事業計画・予算(案)等について審議され、全議案とも原案どおり承認され、又、議場提出議案もなく滞りなく閉会しました。

今年度計画 (具体的事項)

- 1 総 会(5月)
- 2 役員会(4月、7月、11月、3月)
- 3 在宅保健師等連絡会議

(東北:12月、全国:1月)

- 4 各種研修会等の開催及び案内
 - (1) 総会時研修
 - (2) 保健所ブロック別交流会・研修会(併催) (9月~10月)
- (3) 関係機関(県・国保連合会等)開催(共催) 研修
- 5 地域の保健・福祉活動支援事業 6団体
- 6 会報の発行 年3回(8月、12月、3月)
- 7 県・市町村・国保連合会等からの要請事業等 への支援・協力
 - (1) 青森県新任等保健師育成支援事業・ 青森県保健所保健師等育成支援事業 6市町村(150日) 2保健所(30日)
 - (2) 小規模保険者支援事業 深浦町

(9月30日~10月2日)

- (3) 青森県保健協力員会等連絡協議会
- (4) 各種委員の委嘱、各種事業等
- 8 新・国保3%推進運動への参画



「在宅保健師に期待すること~健康づくりと介護予防~」

講師: 国保中央会調查役 鎌形 喜代実氏

青森県の在宅保健師さんにはいつもパワーを感じ、励まされています。 今日参加されている皆さんを見ても、歳を重ねてさらに元気な人が多く、 青森県の健康寿命が延びるのではないかと思います。青森県は平均寿命で苦 労もありますが、あまり結果を気にしすぎず、楽しく活動していきましょう。

(要 旨)

健康づくり施策における最新の国の動向

- 人□構造の変化により、高齢者割合が増え医療費が高くな るのは当然のことであり、最大の課題は若年世代が急激に 減少することである。適切な医療受診は重要なことである が、今後は健康づくりがますます重要になる。
- ●団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年を見据え、誰も がより長く元気に活躍できる社会の実現に向けて「多様な 就労・社会参加の環境整備」「健康寿命の延伸」「医療サー ビス改革による生産性の向上」等を政策課題として進める こととしている。(図1参照)
- 中でも「健康寿命の延伸」については、「健康無関心層も 含めた予防健康づくりの推進」「地域・保険者間の格差の 解消」の2つのアプローチにより「次世代を含めたすべて の人の健やかな生活習慣形成等」「疾病予防・重症化予防」 「介護予防・フレイル対策、認知症予防」の重点三分野に 取り組み、更なる延伸を図ることとしている。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

- すでに各市町村で行われている、介護予防事業や保健事業 に横のつながりをつくり、拡充していく仕組みづくりのこ とである。
- ●後期高齢者に対する保健事業は、これまでほとんどが健診 事業のみであったが、年齢構成の変化や安定的な社会保障 制度を維持するために、フレイル状態に着目した高齢者の 疾病予防の取り組みが必要とされた。
- ●そこで、各市町村が実施してきた「通いの場」に着目し、 (図1)

これまでは住民が自主的に運営して きたが、そこに専門職を配置し、より専門的視点に立った 実施ができるよう枠組みづくりが行われようとしている。

今後は、KDBデータなどを活用した対象者の選定など、 より効果的な実施が法制化される。



保健事業の効果的な実施について

- データ分析を活かしながらPDCAサイクルに沿って保健 事業を行うことの重要性が示されてきている。地域別にデ ータを分析することで、詳細な情報からアプローチ方法を 変えたり、よりきめ細かな対策が立てられるようになった。
- 特定健診・特定保健指導の実施率は上がってきているが、 地域差、保険者間の差があり、例えば医療機関の受診をし ていて健診を受けない人49.7%、また医療機関も健診も受 けていない人は16%であるなど、まだまだアプローチする 対象者は多いため、現状を把握し、効果的な保健事業につ なげることが必要である。

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現

資料3

 ▼来年10月の消費税率の引上げによって、2025年を念頭に進められてきた社会保障・税一体改革が完了。今後、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた検討を進めることが必要。
 2040年を見通すと、現役世代(担い手)の減少が最大の課題。一方、高齢者の「若返り」が見られ、就業率も上昇。 ■ 2040年を見通すと、現役世代(担い手)の減少が最大の課題。 今後、国民誰もが、より長く、元気に活躍できるよう、以下のI 元気に活躍できるよう、以下の取組を進める。

①多様な就労・社会参加の環境整備

①多様な就労・4.エシルー ②健康寿命の延伸 ② 座 泰・福祉サービスの改革による生産性の向上 ニートマ社会保障の持続可

③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上 ④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す。 《現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題》

- 【雇用・年金制度改革等】 更なる高齢者雇用機会の拡大に 向けた環境
- 就職氷河期世代の就職支援・ 職業的自立促進の強化
- 中途採用の拡大
- 年金受給開始年齢の季軟化。 被用者保険の適用拡大、 私的年金 (iDeCo (イデュ) 等) の拡充 地域共生・地域の支え合い

、引き続き取り組む政策課題》

【健康寿命延伸プラン】

※来夏を目途に策定 2040年の健康寿命延伸に向けた目標と2025 年までの工程表

健康寿命の延伸

- ・①健康無関心層へのアプローチの強化、② 地域・保険者間の格差の解消により、以下の 3分野を中心に、取組を推進 次世代を含めたすべての人の健やかな生活
- 疾病予防・重症化予防 介護予防・フレイル対策、認知症予防

医療・福祉サービス改革

【医療・福祉サービス改革プラン】 ※来夏を目途に策定

2040年の生産性向上に向けた 目標と2025年までの工程表 ○ 以下の4つのアプローチにより、取組を推進 ロボット・AI・ICT等の実用化 推進、データヘルス改革

・タスクシフティングを担う人材の育成、シニア人材の活用推進 組織マネジメント改革

経営の大規模化・協働化

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

厚生労働省資料

~在宅保健師への期待~

- ●全国には41都府県に在宅保健師の会が組織さ れ、在宅保健師の頑張りが少しずつ広がってき
- 培ってきたキャリアをセカンドキャリアとして 活かしてほしい。
- 貴会のこれまでの実績は、どれもとても重要な 取り組みであり、他県の在宅保健師の会も青森 県の活動を参考にしている。今後も会員の資質 向上を常に意識し続けてほしい。
- また、今後も高齢者の保健事業と介護予防の一 体的実施など、在宅保健師の協力が不可欠であ るため、是非地域へ協力してほしい。地域づく りに保健師が関わることの意義として、医療の 視点が加わることが挙げられる。
- ●今後も自身の健康づくりを第一に、また地域の 若い保健師と協力していただきたい。

交流会。情報交換会

今回は全体テーマを設定しませんでしたが、7グループに別れて、将来保健師志望の青森中央学院大学の看護学生4名も各グループに加わり情報交換が行われ、それぞれのグループから笑い声が溢れ、時間はあっという間に過ぎたようでした。また、研修会終了後には学生さんから、浅虫でのドイツ式健康ウォーキング(クアオルト)の紹介と参加への呼び掛けがありました。

1 グループ

~退職後の生活でワクワクすること、ドキドキすること~

- 先輩たちとの交流に刺激を受ける。(いつまでも元気!!)
- 外の研修会に出ることは、ワクワクに繋がる。
- ●80代でもジムに参加、挑戦を続けている!!

2グループ

~ワクワクドキドキしながら生活していること~

- ●友達と話したり、山に行ったりしている。
- ●水彩画をはじめ、家の中にも作品を飾っている。
- ●地域を知るため、老人クラブに入り地域住民と交流するようにしている。
- ●料理はクックパッドを見て新しいものに挑戦している。

3グループ

- ●親の介護に保健師の知識を活かせた。
- 退職後も難病相談、思春期相談などを行っている。
- ●新任保健師のトレーナーを行っている。
- ●幼稚園や小学校に行き、読み聞かせのボランティアを行っている。



4グループ

~保健師になって良かったと思うこと~

- 孫育てから介護まで、保健師の能力を活かすことができる。
- ■マラソン大会の救護、健康相談など地域の中で役立てられることがたくさんある。





- ●町内会で保健師であることを活かし、食生活改善推進員や 防災士、住環境コーディネーターをしている。
 - ~在宅保健師としての目標~
- 地域づくりに力を入れたい!
- つながりを大事にこの会の会員を続けていきたい。
- ●はたらき盛りの方々に健康づくりを広めたい。

5グループ

- ●80代まで働いてあと1年で大台の年齢ですが、今でも毎日 5キロ歩いている。
- ●精神障害者の家族会で多くの交流がある。
- コーラス、書道などに励んでいる。



6グループ

~後輩に伝えたいこと~

- ●仕事は楽しく!!
- 仕事の振り返りをしてほしい。現職は前進あるのみ。
- ●住民の健康づくりは、勤務場所には関係ない!!
- 市町村と保健所・県をつなぐ役割は在宅保健師にある。

7グループ

- ●研修に積極的に参加するようにしている。
- 周りへのお世話 (おせっかい) をしている。
- ●通いの場で百歳体操に取り組み、仲間づくりをしている。保健師としての視点を活かしていきたい。

総会アンケート結果

(1) 総会について

- ●会の活動状況がよく分かった。
- 会員の発言があればもっと良かった。

(2) 交流会・情報交換会について

- ●皆さんが活き活きと生活を楽しんでいる様子がわかり、楽しかった。
- ●地域づくりの実践が素晴らしい先輩が多く感動し、私 も頑張ろうと思った。
- 少人数の交流であり、みなさんからゆっくり話を聞く ことができ、お互い刺激になった。



● 学生が入ったことで話に膨らみもでき、今の若い方が 学んでいることも分かった。

(3) 研修会について

- ●全国の動向を知ることができ、参考になり良かった。
- 健康づくりの施策の動向を聞き、現在高齢者の健康づくりを取り巻く現状が理解できた。
- ●在宅保健師への期待も大きいことが分かった。
- セカンドキャリアとして、地域に活かしていきたいと思った。



(4) 会に対する意見要望など

- ●今後も学びを深め、研鑚を重ねていき たい。
- ●在宅保健師の活動が自らの健康づくりに繋がることを認識した。
- 在宅保健師として今後も研修を受けて いきたい。多くの学習する機会を作っ てほしい。
- 今回参加して自分でも地域で活動できることがありそうな気がした。

役 具 会 觀 告

7月11日(木)、国保連合会8階会議室において、令和元年度第2回役員会が行われました。

今回は、今年度の総会・研修会の振り返り、地域の保健福祉活動支援事業助成審議のほか、会員近況アンケートの結果から、新入会員勧誘に向けた方策等について協議されました。

役員会は年4回開催されており、各地域での取り組みや会員の皆さんの近況報告など、毎回活発な意見交換が行われています。

また、今回の役員会では、歴代会長、歴代保健活動推進専門員が集まり、現役員とともにこのたび、国保連合会常務理事を退任することとなった寺田義秋氏を囲んで「昼食会」を開催しました。本会からはこれまでのご支援に対して感謝状を贈呈し、思い出話や、寺田常務理事の功績を振り返り、改めて保健師に対するご理解とご支援に感謝をお伝えしました。



特別 寄稿

青森県国保連合会寺田常務理事が7月11日をもって、退任されました。 寺田常務理事(当時)には、青森県の保健活動を常に支え、また青森県 在宅保健師の会設立にも多大なご支援をいただき、常に我々の活動を力強 く後押ししていただきました。退任にあたり、寺田常務理事(当時)より 寄稿いただきました。



国保一筋に50年

前青森県国保連合会常務理事

寺 田 義 秋 氏

私は、青森県国保連合会に役員と職員を通算し、約50年(49年4か月)勤務させていただきました。

私が国保連合会に入った頃は、国保の審査支払業務が中心でしたが、今では後期高齢者医療、介護保険、障害者総合支援、健診業務まで拡大しています。

この仕事を生涯の仕事としてやっていかなければならないと若い時に思ったのは、高齢社会が進む中で、地域住民がいつでも、どこでも医療を受けられるようにし、高齢になっても健康で明るく生活していただくことが大事であると考えたからです。

その中で特に、仕事に意気を感じ取り組んだ事業が2つあります。

1つは、地域医療の確保関係で、①医師不足が深刻な昭和40年代後半に外国籍医師(台湾籍50名、韓国籍50名)の招聘を担当し、へき地の国保病院・診療所に勤務いただいた。②難航していたつがる総合病院を中核とする西北五圏域の自治体病院の機能再編成を成田元五所川原市長に進言し、その整備に道筋をつけた。③効果が表れつつある医師修学資金支援制度の運営などが挙げられます。

2つ目の健康づくり関係では、①昭和45年に国保連合会に入って、初めて担当したのが弘前大学の医学生と看護学院の生徒による夏季保健活動で、蚊と八工の撲滅やジュースの買い置きの廃止などを進めた。②昭和53年の国保保健婦の一般への移管により、国保保健事業の活動が低下していたが、寝たきり老人ゼロ作戦の展開に併せて、在宅保健師の会の設立に関わったり、市町村保健師活動へのテコ入れを図るなど、健康づくり事業の充実・強化に取り組んだ。③特に在宅保健師の会には、保健協力員の育成と県組織化、新人保健師の育成、地域住民の通いの場づくりへの協力、在宅保健師の被災地への派遣などに努めていただき、そ

の活動は全国にも知れ渡っています。

私は今でも地域住民のことを考えると、健康でなければ幸せではない。そのためには、これからの地域住民の健康づくりをどのように進めていくかについて、機会があればこれからも皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

私は今期(令和元年7月11日)で常務理事を退任いたしますが、これからは身体に気をつけながら、趣味のウォーキングと温泉めぐり、そして庭木と花を育てながら、のんびり余生を過ごしたいと考えています。

在宅保健師の会の設立にご尽力されました歴代の会 長さんをはじめ、会員の皆様には大変お世話になりま した。厚くお礼申し上げます。

また、国保連合会の保健活動推進専門員をされました、初代の吉田美代先生をはじめ、柴田さん、千葉さん、菊池さん、澤谷さん、そして現職の梅庭さんには、仕事の面でも私的な面でも色々相談に乗っていただき有難く感謝申し上げたいと思います。

ありがとうございました。



研修

報告

令和元年度青森県保健協力員会等連絡協議会総会・研修会

5月22日(水) リンクモア平安閣市民ホール(青森市民ホール)で開催され、本会会員12名を含む542名が参加しました。中野温子会員(五戸町)から、近況報告とご感想をいただきました。

(1) 総 会

来賓挨拶:三村知事、新井山会長

(2) 研修会

① 活動発表

座長:国立大学法人弘前大学大学院医学研究科社会医学講座

特任教授・青森県総合健診センター理事長・青森県医師会健やか力推進センター長 中路 重之 氏

「青森県における健康づくりの今:もう一息を頑張りましょう」

「つがる市保健協力員会活動の紹介」 発表者:つがる市保健協力員会会長 吉井 絹子 氏

「東北町保健協力員協議会の活動について」 発表者:東北町保健協力員協議会会長 駒嶺 詔子 氏

② 「『健康で長生きな青森県』の実現を目指して~「健康あおもり21(第2次)」中間評価を踏まえて~」

講 師:青森県健康福祉部長 有賀 玲子 氏

中野 温子 会員(五戸町)

退職約40日後に92歳の義母を在宅介護で看取り、一人暮らしの90歳の実母の介護に通い、時々孫の保育園送迎や野菜作り等で日々充実しています。

研修会は、青森県全40市町村の健康宣言(令和元年5月29日達成)に貢献した中路重之健やか力推進センター長が座長となり、つがる市と東北町の保健協力員の素晴らしい実践報告等が青森県の健康寿命の延伸に貢献していることを実感できました。また有賀玲子県健康福祉部長から平成27年市町村別平均寿命順位、健康あおもり21(第2次)の中間評価報告等の健康課題が示され、「健康で長生きな青森県の実現へ」は健康づくりリーダーである保健協力員との連携・協働が重要とのことでした。

いい刺激を受けた私は、生まれた町で行政保健師として培ったものを生かし、身内の健康づくりから地域に発展できるように活動したいと思っています。

地域の保健福祉活動報告

地域の保健福祉活動支援事業は、会員が地域で独自に取り組んでいる保健福祉活動を会として支援するものであり、 令和元年度の支援団体について、第2回役員会で決定しましたので、お知らせいたします。

併せて、昨年度より当事業の支援を受けている「"緑町"いきいき百歳体そうクラブ」の活動について北山つね子副会長から報告いただきます。

秀

(1) 小波田「ほっこり会」サロン 代表:能登 富枝

(2) あおもり園芸療法友の会「ワークあかり」 代表:上村 昭子

(3) 梅内ふれあい会 代表:越後

(4) 切谷内「にこにこクラブ」 代表:新井山洋子

(5) "緑町"いきいき百歳体そうクラブ 代表:北山つね子

(6) 飯詰ふれあいっこ 代表:鳴海 寧子

多くの会員の活動に役立てられればと思いますので、支援を希望

する場合は事務局までお知らせ下さい。



"緑町"いきいき百歳体そうクラブ(東北町)活動の様子

令和元年度保健活動研修会

7月9日(火)青森国際ホテルで開催され、本会会員12名を含む89名が参加しました。菊池美智子会員(青森市)より、ご感想をいただきました。

1 主催者挨拶

青森県健康福祉部長 有賀 玲子 氏

2 行政説明「健康あおもり21 (第2次) ~中間評価と今後の取組~」 青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課

健やか力推進グループ総括主幹

簗田 陽子氏

3 説 明「保健事業支援・評価委員会における支援方針について」 青森県国民健康保険団体連合会事業振興課保健事業係主任主査

齋藤 暁子 氏

健康をめぐる「情報力」と「コミュニケーションカ」

: 今、保健専門職に求められるもの コポメネスで国際学研究社 社会協議等主義者会議員が表

4 講演「健康をめぐる「情報力」と「コミュニケーション力」: 今、保健専門職に求められるもの」 座長 青森県立保健大学理事・大学院健康科学研究科 保健・医療・福祉政策システム領域教授(国保・後期高齢者 ヘルスサポート事業運営委員会委員・青森県国保連合会保健事業支援・評価委員会委員) 吉池 信男 氏講師 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野教授 中山 健夫 氏

菊池 美智子 会員(青森市)

現在、看護教育に携わっていますが、学生にばかり「勉強・勉強!」と言う訳にはいきませんので、私の大事な社会資源である国保連合会の研修会の機会にはできるだけ参加させていただくようにしています。今回の中山先生の講演のキーワードは「リテラシー」。昨今よく耳にする言葉であり「読み解き、活用する力」と訳されますが、最終的には「決める力」ともなります。事例を通じ、溢れ返るほど出回っている世の中の情報には、引っかかりやすい、アヤシイ罠が結構仕組まれていることに気づかされました。「確かに、こんな謳い文句あるよね~」と笑って済まされることばかりではありません。そのような中で、"専門職"である私たちは、統計学や疫学の考え方を基礎に情報の裏まで覗き込み、最たるはその情報に踊らされて命や財産を奪われてしまうことがないよう、患者や地域住民を守る使命があることを認識しました。

講演を聴きながら、新人の頃、ある医師から「看護職は通訳者であれ」と助言されたことを思い出しました。物事や行動様式を自ら選択できる力をつけてもらうために、対象者が納得できるよう、事象をよく噛み砕いて伝えることが通訳者の役割だとすれば、私たち保健師はずっと昔からヘルスリテラシーの向上を働き掛けてきた専門職なんだなぁと、改めて自信を持つことができた研修会でもありました。

"緑町"いきいき百歳体そうクラブ(東北町) 代表:北山 つね子 副会長

緑町では、数年前から町内会で「達者クラブ」を作り60歳以上の人が年に3回集まり、料理やゲーム、健康講話や旅行を計画し交流を深めていましたが町内会長に任せっきりで主体性はなかなか育ちませんでした。今回幸いに町の介護予防事業をきっかけにサポーター養成講座修了者数人に声がけをしたところ、自主的に活動する必要性を感じてくれて元気な老後を過ごすために自分のため「百歳体操」をやろうとなりました。

地域包括支援センターの協力を得て平成29年度に開始。とりあえず何人でもいいから毎週土曜日に「休まず続けよう」をモットーにお世話係り4人から始め、一年継続できたので平成30年度からこの事業を活用する事にしました。毎週土曜日10時から「百歳体操」を実施し、そのうち年6回「百歳体操」の後せっかく集まるのだからと、自分たちで収穫した野菜や漬物を利用した調理実習、保健師の健康講話、レクリエーション、茶話会を実施しています。それに加え、2月から「かみかみ体操」も始め、集会所を他の行事で使えない時以外を除き休まないで毎週土曜日平均13~14人集まっています。土曜日の集会所は、賑やかなはなし声や笑いでいっぱいになっています。

今年度は、昨年奥さんを無くした高齢の男性にも声がけした所参加してもらえました(男性 5 人)。そのうち参加者で自然にビデオ係、受付係と役割が決まり準備や後片付けは交代でするようになりました。また、しばらく欠席の人の様子をお互いに気に掛けるようになってくるなど少しずつ町内のつながりが出来てきたようです。最近は、ほのぼの交流員、保健協力員、民生委員の協力も得られるようになり町内会の役員にもクラブの存在を認めてもらえるようになっています。「継続は力なり」です。これからも楽しく集まれる場をみんなの力で作り上げていきたいと考えています。

令和元年度在宅・現職保健師保健所ブロック別交流会(研修会)開催

保健所管内毎の在宅保健師が集い、近況報告し合いながら、親睦を深めるため交流会を開催します。 また併せて、現職保健師との合同研修会も行いますので皆様お誘いあわせの上、ご参加くださるよう お知らせします。なお、詳細については、別途ご案内します。

今回は令和2年度から各市町村が実施することとなっている、高齢者の保健事業と介護予防の一体的 実施の中でフレイル予防に着目し、低栄養対策などから地域の健康づくりを考える機会とする予定で す。

【日時及び内容】

日 程	開 催 場 所
9月26日 (木)	五所川原市市民学習情報センター
10月9日 (水)	十和田合同庁舎
10月11日(金)	弘前市民会館
10月23日(水)	リンクモア平安閣市民ホール
10月29日(火)	むつ市役所
10月30日(水)	三戸地方保健所
	9月26日(木) 10月9日(水) 10月11日(金) 10月23日(水) 10月29日(火)

〈時 間〉 11:30~13:30 在宅保健師のみの交流会

13:30~15:15 現職保健師と一緒に研修会

〈内容〉 ①話 題 提供: [高齢者のフレイル予防と低栄養対策(仮)]

話題提供者:各保健所管理栄養士

②意 見 交 換:「介護予防・低栄養対策から地域づくりを考える(仮)」

③ま と め:各保健所健康づくり担当課長

青森県在宅保健師の会・ホームページの開設

この度、青森県在宅保健師の会ではホームページを開設しました。当ホームページでは、会の活動内容や会報、お知らせを幅広く紹介する予定となっております。

皆様にとってわかりやすいホームページを目指して、内容を充実してまいりますので、よろしくお願いい たします。

(青森県国保連合会ホームページ

URL http://aomoriken-kokuhoren.or.jp/よりご覧ください)

会報原稿募集

会報であなたの近況をお知らせください。旅行や趣味等のマイブームや日頃心がけていること、地域活動、なんでも結構です。あなたの寄稿をお待ちしています!!

編集後記

● 5月の総会は、「令和」に変わっての開催でしたが会員の皆さんの笑顔とパワーは相変わらずで、研修講師の国保中央会の鎌形調査役も「さすが青森のパワー」と感心されていました。今年の会事務局は、3月末の澤谷専門員に続き、7月に寺田常務理事も退任されるなど支柱をもがれた感がありますが皆様の変わらぬ笑顔を支えに褌を締め直すつもり頑張っていきたいと思います。皆様からの熱いメッセージなど情報提供をお待ちしていますのでよろしくお願いいたします。